地方創生×バリアフリー

中能登町から世界へ発信
バリアフリーなまちづくり

～心のバリアフリー先進地を目指して～

障害攻略課

ショウガイコウリャクカ

中能登町

平成２９年４月スタート

障害攻略課

シ ョ ウ ガ イ コ ウ リ ャ ク カ

社会障害をゲーム感覚で楽しく攻略

中能登町

私の正体

●平成11年　入庁（旧鹿島町役場）

中能登町役場企画課　主査

４２歳　妻、子供３人

●住まい　中能登町能登部上

（鹿西高校、ＪＲ能登部駅近く）

●勤務地　中能登町役場　鳥屋庁舎

●仕事　①地方創生（障害攻略課など）

②観光振興

③古民家再生

④ふるさと納税

●信念　「できない理由」より「できる理由」を考える

自立運営、継続性の必要性

中能登町の場所

「何も無い町」

- 海がない町
- 観光資源がない町
- 通過型の町

「住みやすい町」

- 子育て支援

１子　10万円

５子　50万円（最大）

どぶろく特区

日本最古の
おにぎり

能登上布

雨の宮古墳

不動滝

全国的な人口問題を知ろう

中能登町 ～心のバリアフリー先進地を目指して～

（出典）総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）をもとに、国土交通省国土計画局作成

※総務省「国勢調査」「国立社会保障・人口問題研究所」

日本の人口

現在　約1億人

↓

【2100年】

4,771万人

↓

この人口数は

明治時代

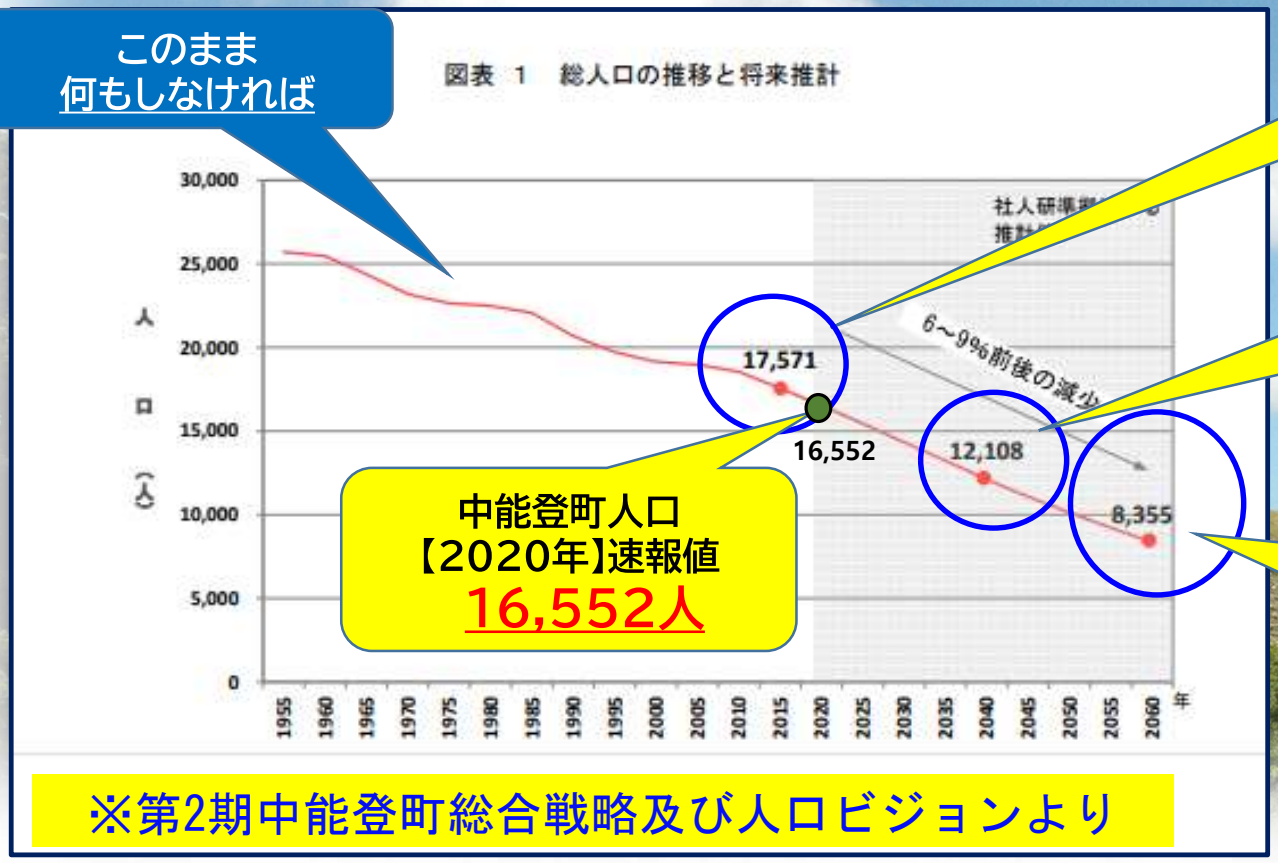
1868年の

人口に

戻る数値

中能登町 ～心のバリアフリー先進地を目指して～

このまま
何もしなければ



中能登町人口
【2020年】速報値
16,552人

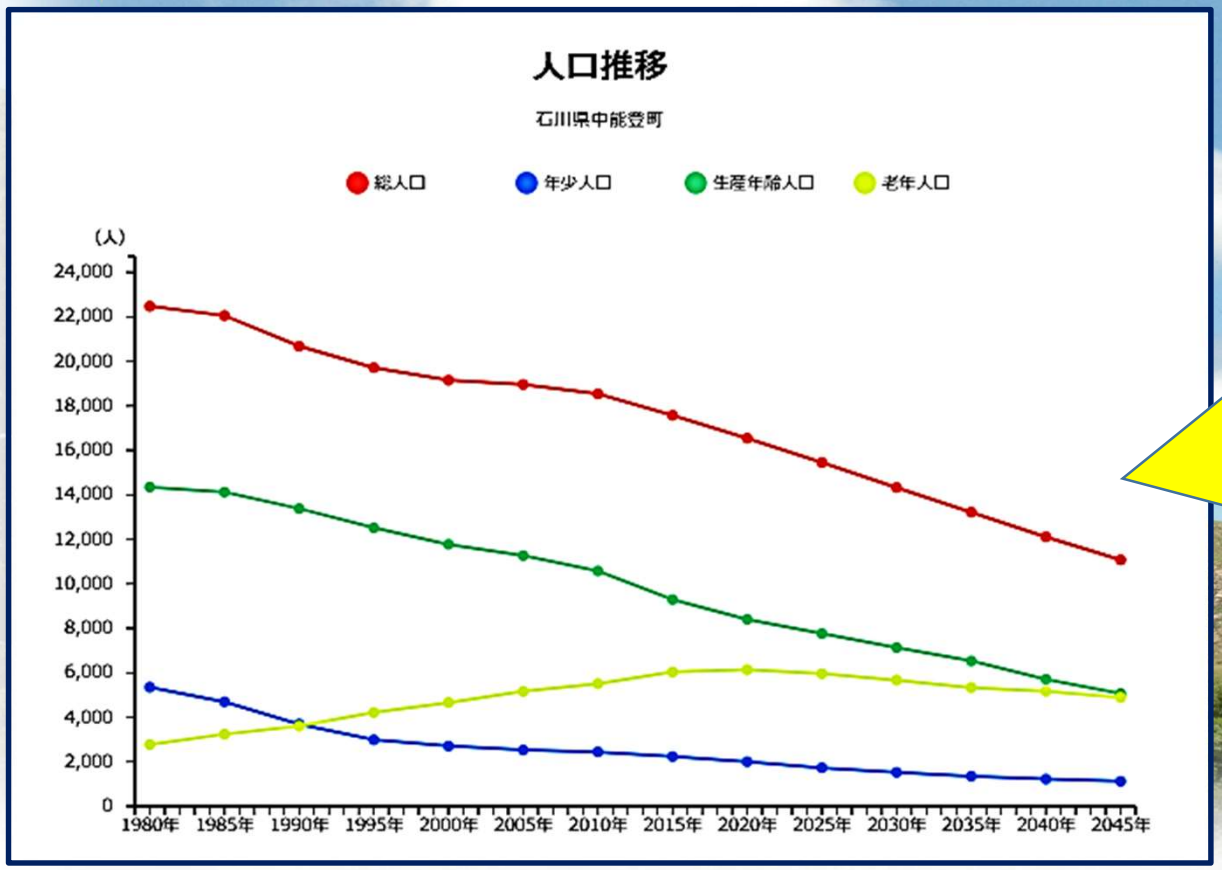
中能登町人口
【2015年】
17,571人

中能登町人口
【2040年】
12,108人

中能登町人口
【2060年】
8,355人

※第2期中能登町総合戦略及び人口ビジョンより

中能登町 ～心のバリアフリー先進地を目指して～

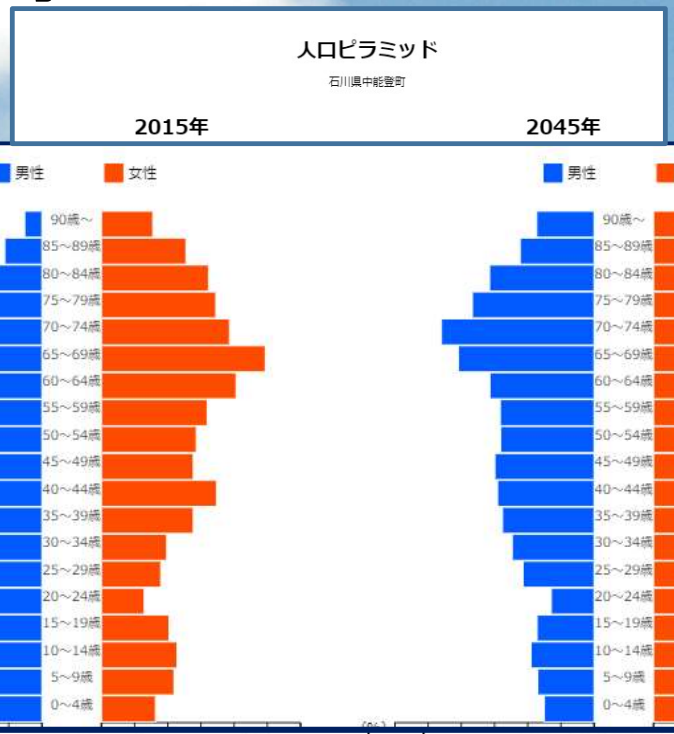


中能登町の
「総人口」
「年少人口」
「生産年齢人口」
「老年人口」
すべて減ってきます

地方創生×バリアフリー

中能登町 ～心のバリアフリー先進地を目指して～

障害攻略課
ショウガイコウリャクカ

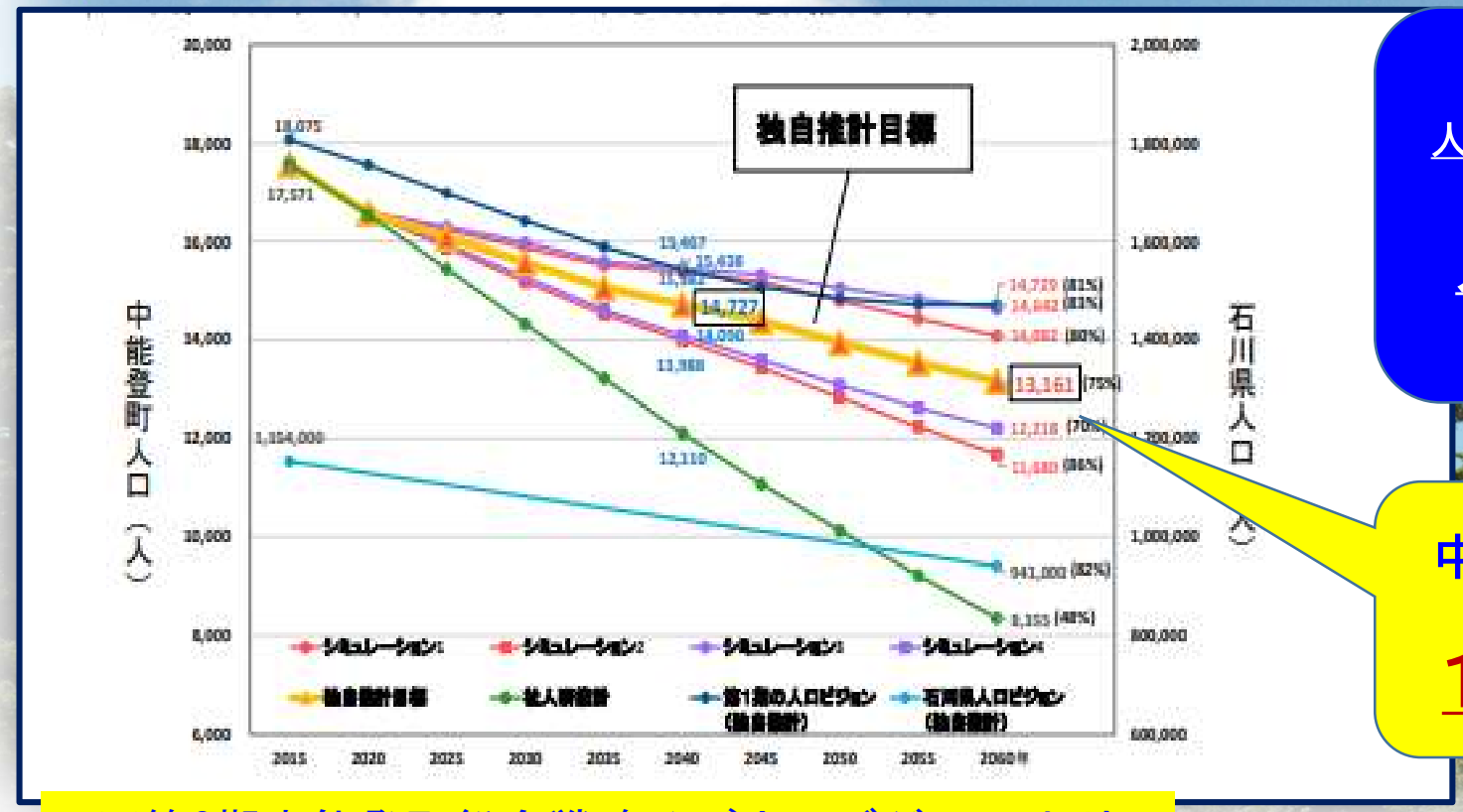


中能登町老年人口
【2015年】
6,034人
【34.34%】

中能登町老年人口
【2045年】
4,890人
【44.15%】

老年人口（65歳以上）：6,034人 （34.34%）	老年人口（65歳以上）：4,890人 （44.15%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：9,293人 （52.89%）	生産年齢人口（15歳～64歳）：5,066人 （45.73%）
年少人口（0歳～14歳）：2,237人 （12.73%）	年少人口（0歳～14歳）：1,121人 （10.12%）

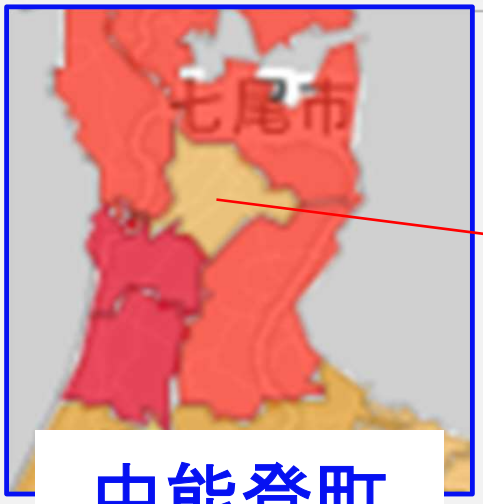
中能登町 ～心のバリアフリー先進地を目指して～



4つの人口シュミレーションをたてて人口減少に歯止め

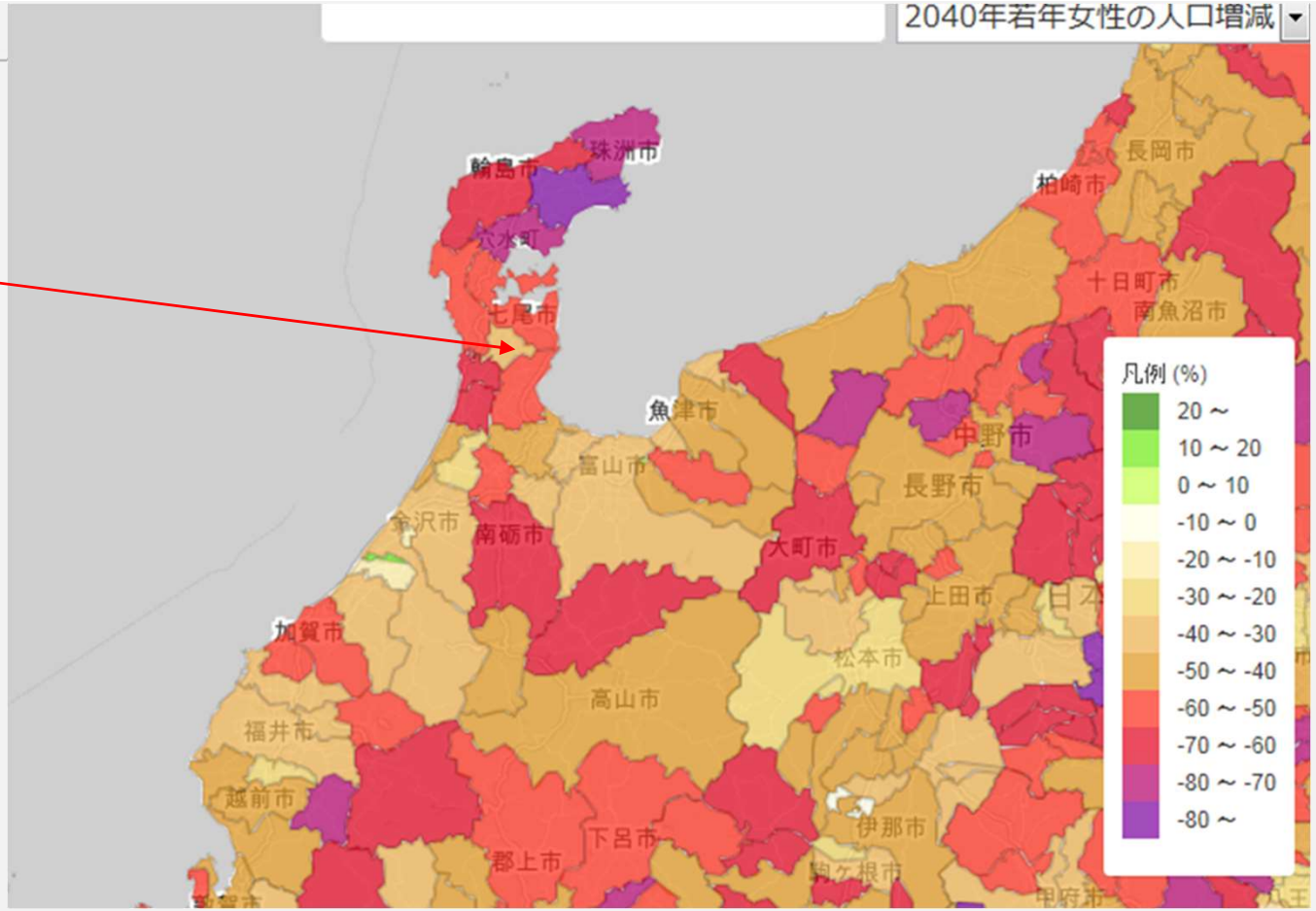
中能登町の目標【2060年】13,161人

※第2期中能登町総合戦略及び人口ビジョンより

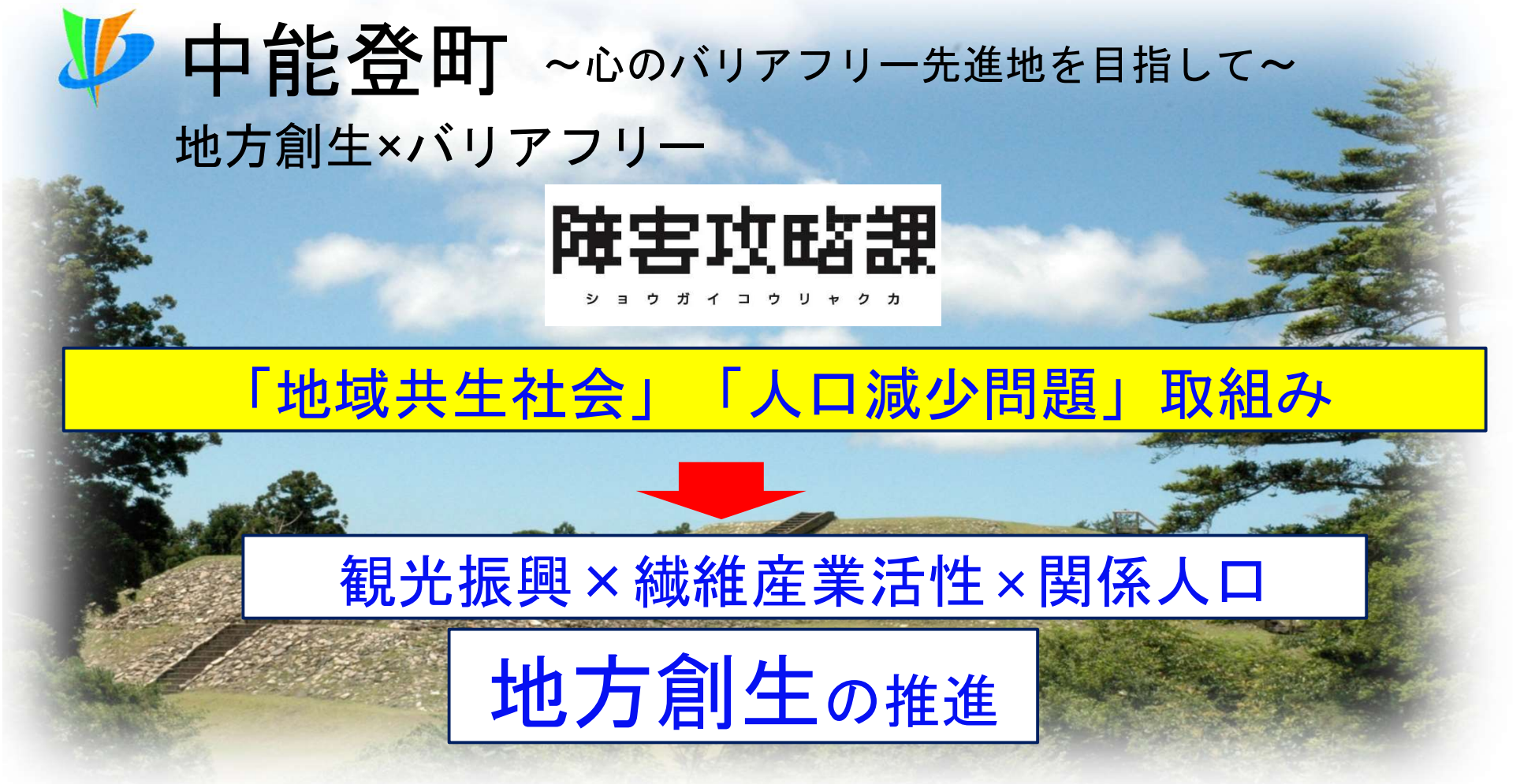


中能登町

能登で唯一
「消滅可能性都市
ではない町」



女性の人口増減がゆるやか


中能登町 ～心のバリアフリー先進地を目指して～
地方創生×バリアフリー
障害攻略課
ショウガイコウリャクカ
「地域共生社会」「人口減少問題」取組み
観光振興×繊維産業活性×関係人口
地方創生の推進

まず　皆様に知ってほしいこと

社会にある　いろいろなバリア

物理的バリア

公共交通機関、道路、建物などにおいて、利用者に移動面で困難をもたらす物理的なバリアのこと。

【例】路上の放置自転車、狭い通路、急こう配の通路、ホームと電車の隙間や段差、建物まで段差、滑りやすい床、座ったままでは届かない位置にあるものなど。

制度的バリア

社会のルール、制度によって、障害のある人が能力以前の段階で機会の均等を奪われているバリアのこと。

【例】学校の入試、就職や資格試験などで、障害があることを理由に受験や免許などの付与を制限するなど。

文化・情報面バリア

情報の伝え方が不十分であるために、必要な情報が平等に得られないバリアのこと

【例】視覚に頼ったタッチパネル式のみの操作盤、音声のみによるアナウンス。点字・手話通訳のない講演会。分かりにくい案内や難しい言葉。

意識上バリア

周囲からの心ない言葉、偏見や差別、無関心など、障害のある人を受け入れないバリアのこと。

【例】精神障害のある人は何をするか分からないから怖いといった偏見。障害がある人に対する無理解、奇異な目で見たりかわいそうな存在だと決めつけたりすることなど。

中能登町から世界へ発信バリアフリーなまちづくり

～心のバリアフリー先進地を目指して～

こころ

心のバリアフリー

バリアフリー(障壁)

段差　言葉　障がい

勝手なイメージ

＋

ファッション　旅行　食べ物

障がい者の気持ちを聞いたか？

ちなみに 中能登町の
観光資源といえば・・・

●能登文化発祥の地・中能登町

このマップをよくみると…

町民の口癖

「中能登町は何もない」

「何もない？」よく考えてみると・・・
すべてが欠けている

障害攻略課
ショウガイコウリャクカ
中能登町

「欠けられる町なんだ」
「何にでも×（かけ）ることができる町なんだ」　※ダジャレかい

社会的障害・・・義足

繊維産業×義足＝切断ヴィーナスショー

ということで・・・

●平成２７年・平成２８年　切断ヴィーナスショー開催

中能登町がバリアフリーな
まちづくりを目指す大きな分岐点

平成２７年と平成２８年
町祭「織姫夏ものがたり」にて

パラリンピックの写真家　越智貴雄さんとのつながりで、「織物の町・なかのと」の強みをいかし、これまでの常識を覆す「義足の女性」たちによるファッションショーを開催。
このショーがバリアフリーへの取組みのきっかけとなる

●小学校４年生が義足女子のファンに！　「義足は私たちの個性」

テレビ、新聞、ＷＥＢで記事に

DIGITAL BOARDデジタル×PR 情報サイトより引用

義足女子のファッションショー「ヴィーナスの足にびっくり、そしてうっとり」

「義足って硬いね」

ショーを終えてステージ裏に戻ってきた義足女子たちを出迎えたのは観客たち。感激を伝えたくて何人もの人たちが集まってきた。握手を求め、綺麗だったと夢中で話しかけていた。

小学４年生の娘を連れてきていたお父さんは「ビックリした　サプライズでした」と興奮気味。「普通のファッションショーだと思ったら、衣装をめくると義足が出てきて驚いた。それにおしゃれ。アスリートなんですか？　義足を隠したいと思わずに明るくて、モデルのみなさんはとてもきれいだった」初めて義足を見た娘は不思議そうに、でも興味津々で彼女たちの足を触ると、「硬いよ」とつぶやいた。

ープは「両手を広げたと
影。憧れの眼差しで義足

驚きもあった観客たち。
になっていた。「義足に
のように美しいものとし
。

あれっ、中能登町民は
違和感なく　障がい者と
溶け込んでいる

しかも
子どもたちまでもが
「心のやさしい町民が多い町」なんだ

中能登町がバリアフリーを目指す理由

中能登町にある
「やさしい風土とやさしい心」
で
バリアフリー先進地を目指せる！

そして
障害攻略課プロジェクトは、
基幹産業
「繊維の活性化」から始まった

“まちづくりプロジェクト”

でも、このプロジェクトを切れ目なく
加速化させるためには・・・

障害攻略課
ショウガイコウリャクカ
中能登町

★本格的にバリアフリーな町を目指す★

「みんなが同じ方向に向いていける拠点が必要だね」

～障害攻略課の誕生～

障害攻略課

シ ョ ウ ガ イ コ ウ リ ャ ク カ

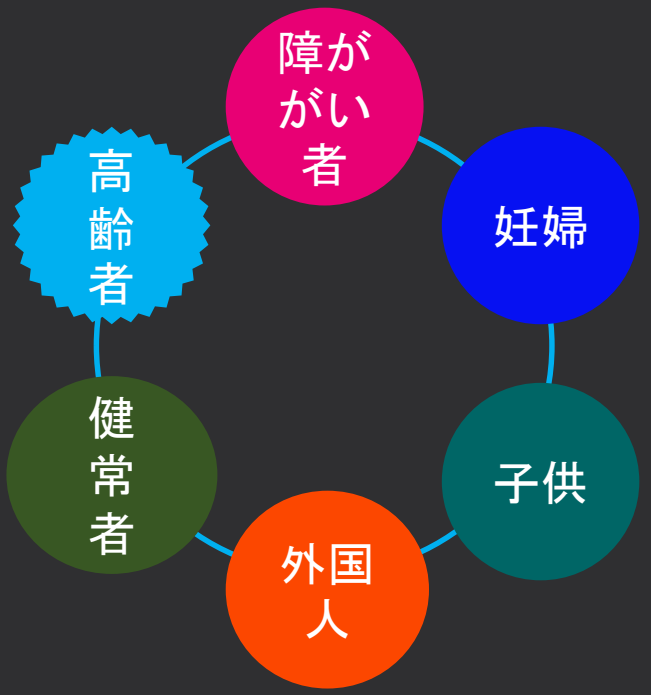
障がい者だけのために
何かをするプロジェクトではないよ

では　どんなプロジェクト？

社会にある障害をゲーム感覚で楽しく攻略

★段差の社会障害
★サイン看板の社会障害
★道路のつまずき（石ころ）
★わかりにくい行政用語
★未満児の遊ぶところ
★神社、お寺

★私たちは社会障害を
楽しく攻略します★



プロジェクトには　同じ志をもった仲間が必要

プロジェクトメンバー

バリアフリー先進地を目指して
記者会見を開き　平成２９年４月
障害攻略課スタート

行政、民間、地域が
一体となって
プロジェクトチーム

●攻略士
●サポーター
（中学生、高校生）

さらに プロジェクトには
ぶれない 柱が必要

障害攻略課プロジェクトを加速させる３本の柱

バリアフリー観光

障がい者ファッションショー

繊維スポーツ

ところで・・・

中能登町の現状

名勝・不動滝

社会障害

障害

国史跡・石動山

国史跡・雨の宮古墳

社会障害

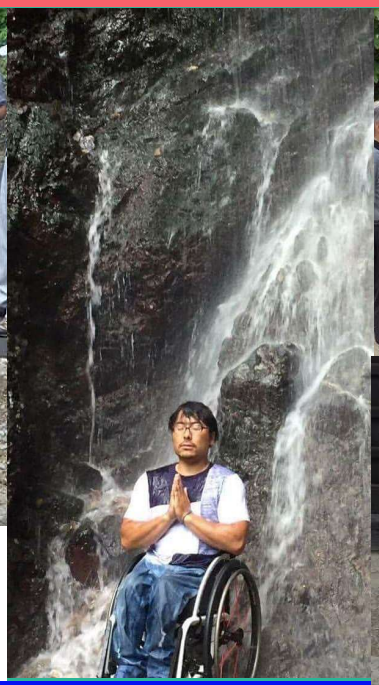
観光地はすべて
山間部

★まずはやってみた

バリアフリー観光検証

●中能登町の観光地をバリアフリー検証

観光地における「**社会障害**」を
ゲーム感覚で面白く攻略



自ら体をはった杉本町長
「私がみんなを支えます」

- ●車いす利用者によるバリアフリー滝行
- ●史跡石動山の山内を車いすで移動検証
- ●各種公共施設　約２５施設をバリアフリー検証しホームページで見える化

●中能登町の観光地をバリアフリー検証

●不動滝の
身障者　駐車場整備

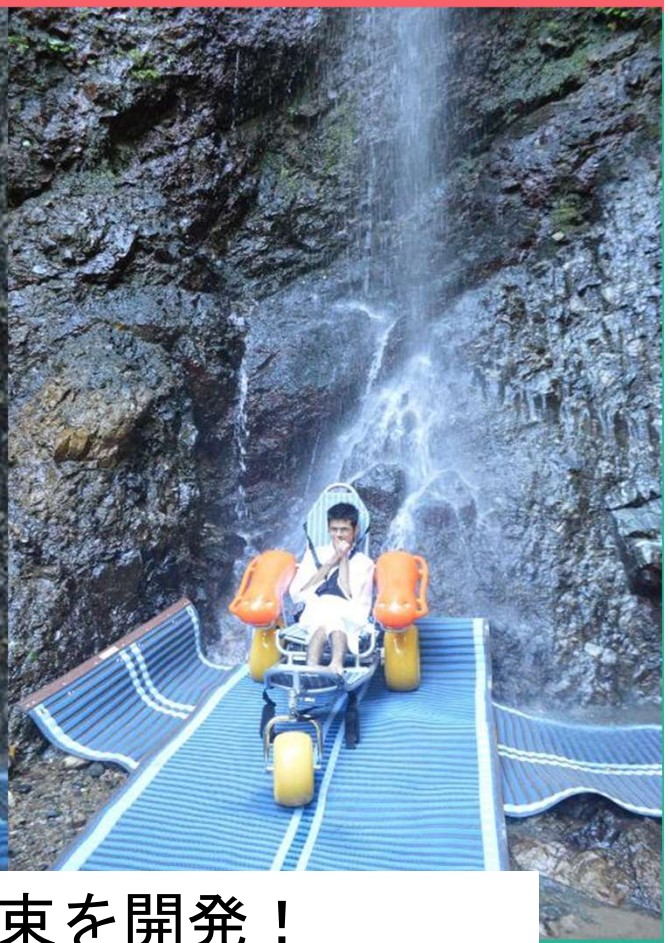
●滝壺までの
凸凹道→きれいに整備

★観光地における「社会障害」の
ソフト面、ハード面も両面で整備中

●滝壺まで快適に
行ける車いすを設置

**その名も
「快適アクロ」**

●みんなが楽しめる観光地「バリアフリー滝行」　不動滝



★繊維技術を使って濡れない白装束を開発！

●みんなが楽しめる観光地「やさしい神社」　天日陰比咩神社

★繊維技術を使った道中行列、玉串奉奠

★まずはやってみた

繊維を使った商品開発

繊維で商品開発

「NAKAN（ナカン）プロジェクト」

※「もう泣かなくていいよ」という意味

●バリアフリー滝行白装束

水をはじく白装束

●車いすタイヤカバー

旅館でも活用可能

●スタッフ

おしゃれなよだれかけ

繊維で商品開発

「NAKAN（ナカン）プロジェクト」

※「もう泣かなくていいよ」という意味

●キモノール

車いす用着物

●アフレルアフロ

繊維の廃材を再利用

●ポップコーンウェーブ

弾力性のある布を使用

★まずはやってみた

繊維を使ったスポーツ開発

繊維を使ったスポーツ開発

毎年のイベントで
開発したスポーツをプレ体験
写真：「ポップコーンウェーブ」

繊維を使ったスポーツを開発
ワークショップ開催

「織物の町・なかのと」 強みをいかし、障がい者、高齢者など一緒に楽しめるスポーツを開発

基幹産業の「織物」の技術を活かし、世界ゆるスポーツ協会とも連携しながら、誰もが楽しめるスポーツを開発

繊維を使ったスポーツ開発

中能登町史上初！3人対3人の玉入れゲーム！！

ポップコーンウェーブ

ゆるスポーツ！基本ルールは玉入れと同じ♪

アフレルアフロ

的に当てて、どぶろくの工程を覚えよう！

どぶろっくアウト

袋を各ゾーンに入れて味噌作り！

みんなで手前味噌

バレーボールのような面白ゲーム！！

なかのとdeボール

指定された重さまで不動石を入れよう！

不動石は何グラム？

重さを覚えて、点字ブロックを歩こう！

ナカンの種探し

かるたをイメージした頭脳が働くゲームです！

SUPER 中能登あわせ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs 玉入れ

パラシュートとバルーンが合体！
大きな布を音楽に合わせて動かそう！

なかのとゆるバルーン

ビリヤードが繊維スポーツに新登場！

おにぎりビリヤード

等身大すごろく！中能登町をぐるりと回る！
クイズに正解してポイントをゲットしよう！

バスマップすごろく

１２種類

（令和3年4月1日時点）

「やってみた」を　1年間通じて
切れ目のないプロジェクトが必要

障害攻略課プロジェクトの歩み
観光×繊維

2015
2016

元パラアスリート
バリアフリー滝行
広める

2017

障害攻略課
プロジェクト発足
2017. 4

2018

全国バリアフリー
石川大会
2017. 7

車いす 2017. 8
ファッションショー実施
「キモノール」

中能登町で初の
障がい者ファッションショー
「切断ヴィーナスショー」

2019

中能登町初の
繊維スポーツ
「ポップコーンウェーブ」誕生
2018. 7

中能登町
バリアフリー滝行
月間
2018. 8

やさしい玉串奉奠
天日陰比め神社
2019. 6

令和 2019. 8
ファッションショー実施

2020

2019. 12
令和を祝う
やさしい道中行列

全国的にも珍しく
メディアにも取り上げられた

少しずつ広まる
バリアフリー共生社会

●障害攻略課のうごきをサイトで発信していきます

「障害攻略」中能登町挑む

観光地のバリアフリー化
車いすファッションショー

プロジェクト進行、課題は町民参加

地域未来派

中能登町に「障害攻略課」

観光ツアーやファッションショー
バリアフリー、楽しく推進

中能登町は16日、障害や加齢で体が不自由になった人が住みやすく、訪れやすいまちづくりを推進するため「障害攻略課」と銘打ったプロジェクトを始める。町職員や中能登中生徒、有識者らが「課員」となり、障害者とともに楽しむツアーやイベントの企画などを行う。あらゆる機会で障害がある人に健常者が寄り添い、施設や心理的な障壁を乗り越えるヒントを探って、町全体でバリアフリーを進める。

「障害攻略課」は正式な町の課ではなく、プロジェクト名となる。

バンクーバー・パラリンピックのアイススレッジホッケーで銀メダルを獲得した上原大祐さんらを中心に、鹿西高や中能登中の生徒、石川バリアフリーツアーセンター（金沢市）の職員らがプロジェクトに参加する。

計画では、町内施設が障害者や高齢者に優しい設計かを調査するとともに、障害者らが遠慮無く楽しめる「バリアフリー観光」のツアー、車いすを使う人が出演するファッションショーなどを行う。老若男女が楽しめるよう、体を動かす楽しさやコミュニケーションを重視した「ゆるスポーツ」の実施も検討している。

中能登町と石川バリアフリーツアーセンターは2015年から、町内で障害者やお年寄りに優しい「バリアフリー観光」を推進している。これまで、各施設の車いす対応トイレやスロープの有無の調査や、不動滝や石動山資料館には砂利道でも移動しやすい車いすを設置するなどしている。

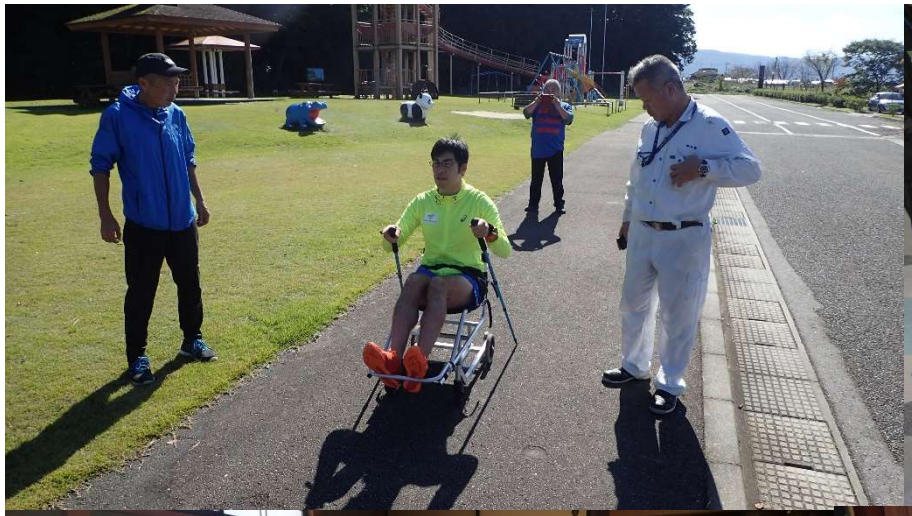
行政の「課」を名乗るプロジェクトでは、県内ではかほく市が昨年発足させた、子育て中の母親らでつくる「ママ課」がある。中能登町によると、障害者対応で「課」を名乗るプロジェクトは、県内自治体では初めてとみられる。

16日は、同町のラピア鹿島で、「課員」が「障害攻略課」について紹介する。その後、上原さんらが記念講演する。町企画課の担当者は「ハード面にとどまらず、心のバリアフリー化も進めたい」と話した。

中能登町は観光地に砂利道でも移動しやすい車いすを設置するなどバリアフリー化を進めている
＝同町井田の不動滝

16日発足
パラ五輪、上原さん参加

そしていろいろな人が
自分ごとになって関わりができた



プロジェクトが地域にも広がってきた

いろいろやってきたが
次にやりたいことは・・・

次のテーマは
「文化財×アート」

岩手県 Project Nippon

花巻市のスタートアップ　ヘラルボニー

知的障害のあるアーティストとビジネスをつなぐ

花巻市から、福祉を軸に様々な事業を展開するスタートアップ、ヘラルボニー。
知的障害のあるアーティストの作品をアパレル製品や街なかの装飾として社会に広め、
金銭的にも社会的にも正当な評価を得られるようプロデュースする。

ヘラルボニー（岩手県花巻市）は、社長を務める松田崇弥氏と、副社長の松田文登氏の双子の兄弟が運営する企業だ。設立は2018年7月。知的障害のあるアーティストの作品を、ネクタイやハンカチなどの製品にしたり、駅や工事現場の囲いに作品を掲示するなどのビジネスを展開している。

作品から受けた衝撃を広めたい

両氏の4つ上の兄が自閉症で、子どもの頃から兄と一緒に福祉施設を訪問したり、イベントに参加したりする機会が多かった。そのかかわりの中から、「いつかは福祉の領域に進みたいと考えていました」と、崇弥氏は振り返る。しかし、すぐに福祉系の道に進むことはなく、崇弥氏は東京の広告会社でプランナーとして働き、文登氏は東北の大手建設会社で、東日本大震災からの復興に携わっていた。

ヘラルボニーを起業するきっかけとなったのは、花巻市の社会福祉法人光林会が運営する「るんびにい美術館」で、知的障害のあるアーティストの作品に触れたこと。いの時に訪問し、この凄さを福祉に

くことはできないかと考えました」（崇弥氏）。

障害者を含む、正規の美術教育を受けていないアーティストの製作した芸術作品は、「アウトサイダー・アート」や「アール・ブリュット」と呼ばれている。展覧会が開かれたり、作品が美術市場で取引されるアーティストもいる。ヘラルボニーでは、国内の知的障害のあるアーティストの作品を世に広めることを目指している。「アート作品を、アートの土俵に乗せてビジネスにし、障害のある人のイメージを変えたり、賃金アップにつなげていきたいと考えています」と文登氏は狙いを語る。

現在のヘラルボニーの主なビジネスは、アーティストの作品を服飾製品などにデザインして販売する事業と、事業者と組んで工事現場の仮囲いなどに作品を展示する「全国仮囲いアートミュージアム」だ。

ヘラルボニーが最初に製品化したのは、紳士用品の老舗・銀座田屋と作ったシルクネクタイ。アーティストの作

ヘラルボニーの松田崇弥社長（左）、松田文登副社長。ネクタイは自社製品

品を生産しているメーカーと組んで、ハンカチや扇子などに製品の幅を広げている。製品はオンラインショップのほか、丸井やパルコ、盛岡市の老舗百貨店であるカワトクやなどに期間限定ショップを出店して販売してきた。色遣いなどに独特の魅力があり、プレゼント用に購入する女性客に人気だ。

また2020年6月には、作品をプリントした布で作ったマスクのクラウドファンディングを開始した。この「アートマスク」については、既に大

高輪ゲートウェイ駅の仮囲いアートミュージアム。絵をプリントした布はトートバッグにアップサイクルし、JR東日本グループが販売

アーティストの作品を使用するなど、B to Bのビジネスも広げていきたい」

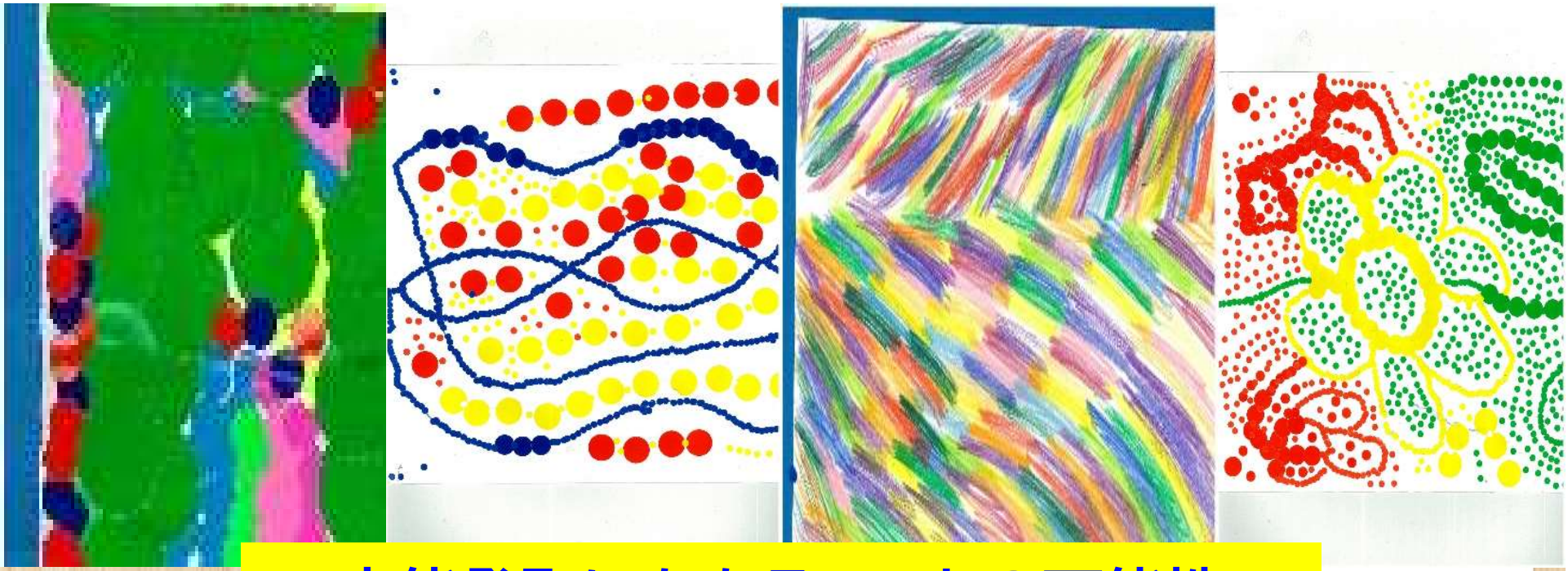
してトートバッグに仕立てる。2020年6月に予約販売を開始し、デザイン

6月5日発売

アート思考
クリエイテ

東京山手線「高輪ゲートウェイ駅」

全国に広がるアートの世界



中能登町にもあるアートの可能性

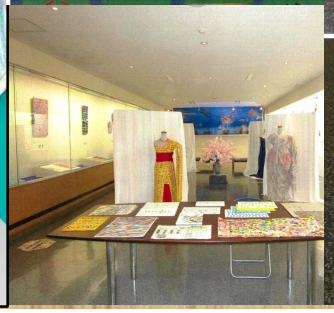
社会福祉法人　つばさの会の
利用者によるアート

国登録有形文化財「旧丹後邸」
文化財 × アート

障害攻略課

ショウガイコウリャクカ

社会福祉法人つばさの会



更新日：2019年12月3日

令和元年11月28日 2023年度（令和5年度）国民文化祭開催地が石川県に内定

2023年度（令和5年度）の国民文化祭の開催地が、石川県に内定しました。

国民文化祭は、音楽や芸術、演劇など、全国各地でさまざまな文化活動をされている方々や団体が、成果を発表・披露する国内最大の文化の祭典です。県内では1992年（平成4年）以来で、2度目の開催となります。

28日に文化庁で内定書交付式が行われ、谷本知事は「31年ぶりの開催となり、とても嬉しい。多くの県民の皆さん方に参加いただき、石川ならではの国民文化祭にしたい」とあいさつしました。

国民文化祭が開催される2023年（令和5年）には、北陸新幹線の県内全線開業が予定されており、相乗効果で交流人口の拡大と、石川県の特徴である文化の魅力発信につなげていきたいと考えています。

<お問い合わせ>
文化振興課　　Tel　076-225-1371

結局のところ
中能登町の目指すところは・・・・

中能登町の目指すバリアフリーは
「心のバリアフリー先進地」
地域共生社会

誰ひとりとして残さない・中能登町

ハードだけでは真のバリアフリーなまちとはいえない！

ハード面＋ソフト面のバリアフリー

★心のバリアフリーの推進★

中能登町から世界へ発信
バリアフリーなまちづくり

～心のバリアフリー先進地を目指して～

障害攻略課

シ ョ ウ ガ イ コ ウ リ ャ ク カ

中能登町

ご静聴
ありがとうございました

●中能登町役場　企画課
〒929-1792
石川県鹿島郡中能登町末坂9部46番地
電話　0767-74-2806
FAX　0767-74-1300
Eメール　kikaku@town.nakanoto.ishikawa.jp
HP　「中能登町」で検索「中能登町」公式サイト